使用年数にねじれ現象

耐久消費財の使用年数に奇妙なねじれ現象が起きているのをご存じだろうか？

長寿製品の代名詞だった冷蔵庫、洗濯機など白物家電で除々に短くなる一方、逆に早めに買い替える製品の代表格だったパソコン、ケータイなどでジワジワと伸びているという。

消費動向調査で耐久消費財11品目の平均使用年数を2009年3月と4年前とで比べると、短くなっているのは次の5品目だ。

▼冷蔵庫　9・9→10・5
▼洗濯機　8・4→9・0
▼掃除機　7・1→7・4
▼テレビ　9・2→9・4
▼ビデオカメラ　6・4→6・6

逆に、長くなっているのは次の5品目だ。

▼パソコン　5・3→4・3
▼携帯電話　3・2→2・4
▼デジカメ　3・8→2・9
▼乗用車　7・1→6・7
▼DVDプレーヤー　5・2→4・6

エアコンは10・3年で4年前と変わらなかった。

何が起きているのか？

まずパソコン、ケータイ、デジカメなどでは、これまで大きな購買動機だった「機能向上」が限界に近付き、頻繁に買い替える必要がなくなってきたのがその理由。つまり故障しない限り、使い続ける「成熟製品」になりつつあるわけ。

一方、故障や引越しがないと、あまり買い替えることがなかった白物家電では逆の現象が起きている。理由は「機能向上」。たとえば冷蔵庫なら省エネ機能や買いだめできる500ﾘｯﾄﾙ超の大型製品など、洗濯機なら節水機能が高いドラム式など魅力的な新製品が続々登場し、買い替える客が増えているというのだ。製品寿命も時代に応じてたえず変化し続けているようだ。（日経新聞）

【脳卒中】親友なき「孤独な酒」リスク2倍

親友がおらず、お酒好きな人が脳卒中になる危険性は飲まない人に比べて、約2倍高いことが、厚生労働省研究班の調査で分かった。また、頼れる人がいる人が適量に飲酒していると脳卒中が少なかった。「孤独な酒」は大敵と言えそうだ。

調査は、93年に40～69歳だった全国5県の男性約一万9千人を10年間追跡し、飲酒と循環器疾患の関係を調べた。また、「秘密を打ち明けられる人の有無」などの人間関係を聞いた。

その結果、一日平均ビール大びん1本(日本酒一合)未満を飲み、頼れる人がいない人の脳卒中の発症率は、飲まない人に比べて、1.2倍高いことが分かった。2本未満で1.8倍、3本未満で1.9倍の差が生じた。

一方、頼れる人がいる人は、2本未満まで0.7～0.8倍と、飲まない人より脳卒中になりにくく、それ以上の大量飲酒になると1.2倍前後に高まった。

これまで、酒は脳卒中の危険性を高めるとされてきたが、頼れる人の有無で違いがあり、頼れる人がいれば適量の飲酒に良い効果があった。一方で、心筋梗塞では、頼れる人の有無に関係なく飲酒で発病の危険性が低かった。

研究班は「上手に飲めば、酒は百薬の長。休肝日を設け、みんなで楽しく飲めばストレスを解消し脳卒中予防に役立つのではないか」と説明する。

要建て替えマンションが146万戸！全国で実質　野ざらし

売主の経営危機や在庫の安値放出など、先行き不透明な新築マンション市場。だが、じつはより深刻なもう一つのマンション問題が不動産・建設業界でささやかれている。全国に膨大に残っている「要建て替えマンション問題」だ。

東京カンティの調査によると、1981年以前の旧耐震基準で建てられた全国のマンション戸数は、現在146万1056戸ある。先の阪神・淡路大震災で倒壊したマンションの多くが旧耐震だったこともあり、早急な耐震補強や建て替えが求められている。

ところが、このうち建て替えが完了したものは、国土交通省の調べによると08年10月時点でたったの129戸。まだ、膨大な数の老朽化マンションが全国に手付かずのまま残っているのである。

こうした現状に、国交省も手を拱いている。というのも「マンションの区分所有分はあくまでも個人の所有物で、そこに国が補助を行なうことは公平性を欠く。また建て替えや改修を強制することもできない。あくまでも住民が主体となり、耐震診断や改修、建て替えをするよう、啓蒙活動をするしかない。」と考えているからだ。

大震災はいつ起こるともわからない。このあまりにも不安な状況がこのまま野ざらしにされたままでよいはずはないだろう。

「週刊ダイヤモンド」より

毎月の『節約できる無駄な出費』いくら？

毎月の出費のうち「節約できると思う無駄な出費」はいくらぐらいあるか聞いたところ「1万円以上3万円未満」が34％で最も多く、次いで「5千円以上1万円未満」（32％）だった。

無駄遣いをしていると感じている費目は「外食など飲食費」「食料費・日用品代」「娯楽・教養費」の3つをあげる人が目立ち「光熱費・水道代」「通信費」も多かった。

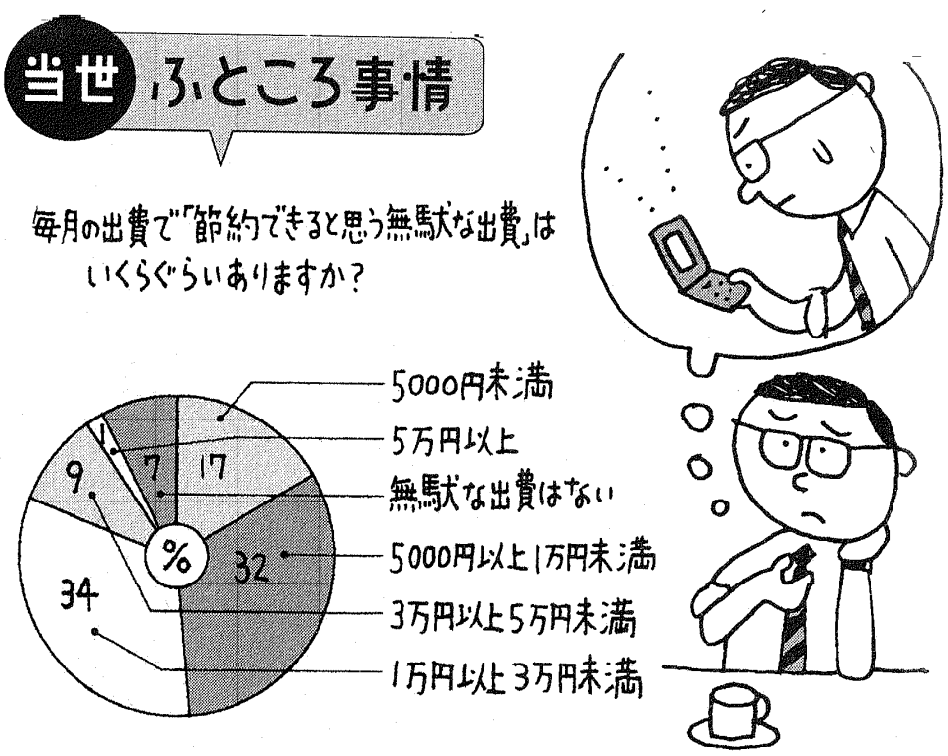
「夫の趣味に使うお金」（埼玉県の専業主婦、33歳）、「夫の小遣い」（愛知県の専業主婦、41歳）など、妻の側から夫の出費に無駄があると指摘する声も多く寄せられた。

実践している節約術としては「なるべく外食しない」（東京都パート・アルバイト女性、33歳）、「職場に昼食、飲み物を持参する」（愛知県の男性公務員、44歳）、「風呂の残り湯を洗濯に使う」（北海道の男性公務員、27歳）など、定番ともいえる節約法を挙げる人がやはり多かった。

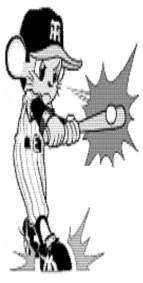
中には「スーパーで提供される無料の水を毎日もらう」（千葉県の女性会社員、31歳）、「エアコンから出る水をトイレで再利用する」（神奈川県の男性会社員、33歳）などユニークな方法も。「なるべく出かけない」（埼玉県の男性会社員、58歳）との声もあった。

「1万円以上３万円未満」が34％

調査の方法　調査会社のマクロミルに依頼し、インターネットで実施。対象は全国の成人既婚男女で、有効回答は618人（男女半々）



TCC会員様　プロ野球阪神戦当選者様



6/26	出丸町	松井　正	様	7/10	宮田町	山本　三郎	様	7/20	梶　原	岡崎　幹郎	様
	西駅前町	笹口　正義	様		西之川原	古畑・福岡直樹	様		東五百住町	田中　忠雄	様
6/28	高槻町	若狭屋	様	7/11	南庄所町	奥田　源司郎	様	7/22	摂津市	高野　文雄	様
	月見町	西野　雅子	様		島本町広瀬	住友　壽	様		明野町	畑中　元夫	様
7/3	緑が丘	溝端　敏夫	様	7/14	城西町	糸瀬　敏和	様	7/28	南平台	大村　正明	様
	天神町	鈴木　治	様		真上町	八木　博	様		大塚町	岡内　勝弘	様
7/5	塚　原	大平　篤利	様	7/15	清水台	川上　勲	様	7/30	真上町	白石　英典	様
	宮之川原	村上　喜昭	様		安満西の町	近藤　幸男	様		北大樋町	西本　富美夫	様

リフォームは土屋に　TEL072-685-5524